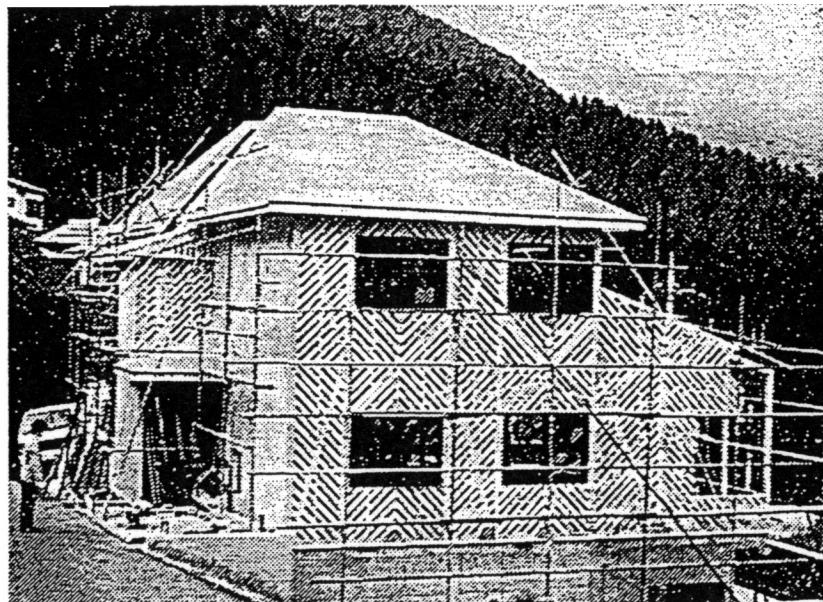


家庭

在来工法の木造住宅で、外壁の作り方をちょっと工夫するだけで、従来よりも二倍半以上の強度を生みに持たせることがができる。このほど実用化された。



TIP構法を使って建築中の熱海市内の民家

下地板を斜め張りに

東京工芸大学
上西教授が開発

実験で効果確認

上西教授は昭和五十八年から、研究に取り組み実験を重ねてきた。開発の段階

の工法を開発したのは、東京工芸大学工芸部の上西秀夫教授(建築構造学)。大学の英語名の頭文字を取って「TIP構法」と命名された。

は筋がいも一緒に)に三角形の合板を約三十本のクリ

たが、昭和十八年には東京工業大学の田辺平洋教授が「耐震構造要項」に記載して、日本芸術振興会編「建築系」強度の実験を行って証明している。世にも数人の学者が

現在、「TIP構法」を用いた木造一階建ての個人

コスト的にみても、下地板の枚数が二割増になるくらいで、従来の造りどよどんと変わらない。

同じ実験をしているが、従来の住宅建設の慣習や作業に多少手間がかかるところなどから、実際の家屋に取り入れた例はこれまでにな

してあるが、近注目されている木造三階建て住宅に活用することも可能。自分の健康は自分で守ると同様に、自分の家は自分で守るといった精神で、「TIP構法」を自宅の建築時に取り入れてもいいでしょう」と話している。

また、上西教授は近く東京工芸大学で「TIP構法」に関する無料のセミナーを一般を対象に開催する予定。問い合わせは東京工芸大学事務室(電話0462-41-0454)。

の重心部分にケタの中央で接着し、さらに、普通は水平に張る下地板を斜めに張った。その結果、従来の造りは二

倍強度を向上させるのに、コストを知るために市販のストレートを調べたところ、外壁の角の柱と土台(まなげ)のつなぎ部分(筋かいがある場合)がだらかの方針が開発され、このほど実用化された。

木造住宅の外壁の角の柱と土台(まなげ)のつなぎ部分(筋かいがある場合)がだらかである場合

外壁ちょっと工夫すれば 耐震強度2倍半以上に

在来工法の木造住宅